

## 令和3年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立静岡聾学校 P T A
学 校 名	静岡県立静岡聴覚特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	30人

### 1. 使用状況

寄贈物品名	平太鼓（3尺）高台座付、締太鼓 立台座付
使用学年及び人数	中学部1、2年生 3人
使用頻度	毎週1回(通年)、行事
使用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「全国聾学校合奏コンクール」での入賞を目標にして、毎週1時間練習に取り組んでいる。</li> <li>・学校行事の「学習発表会」や「太鼓納め式」、校外で行う発表会に向け、定期練習に加えて、発表会の2週間前から毎朝10分間の練習に取り組んでいる。</li> </ul>
物品の使用による変化や効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は太鼓の授業を楽しみにしており、毎回意欲的に取り組んでいる。</li> <li>・音の響きが良いので、演奏しながら体全体で拍を感じ取っている様子である。</li> <li>・一人が複数の太鼓を使用する演出が可能になり、迫力のある演奏ができるようになった。</li> <li>・太鼓の種類が増えたことで、様々なイメージを表現するパフォーマンスができるようになり、曲のレパートリーが広がった。</li> <li>・発表会では、視聴者の幼稚部小学部の子供たちが平太鼓の大きさや音の迫力に引き込まれ、演奏を十分楽しんでいた。中学生になったら演奏したいと希望していた。</li> </ul>
今後の活用の見通しや課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的実施する発表会に向け、今後も地道に練習に取り組んでいく。</li> <li>・校外で演奏する機会を計画し、地域の方々にも披露する予定である。</li> </ul>
その他希望や所感など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太鼓は演奏方法が単純で分かりやすく、全身で表現するため、聴覚障害の生徒でも演奏を楽しむことができます。また、繰り返し練習することで、身体がリズムを覚え、決められたリズムで叩くことができるようになります。寄贈していただいた太鼓を活用しながら、本校中学部の伝統である『静岡太鼓』の「技術」や「精神」を継承しつつ、それぞれの生徒の個性を生かした新たな『静岡太鼓』を作り上げていきたいと思っております。</li> </ul>

## 2. 活用の様子

1年生は基礎練習を繰り返し取り組み、ばちの持ち方や立ち方など太鼓を叩く上で大切な基本姿勢を覚えて、一定のスピードで叩き続けます。リズムに合わせて声を出しながら叩くことで、聴覚障害がある生徒も友達と音を合わせて叩くことができますようになります。「コーヒー」「エッサカ」「うかった」等、太鼓のリズムを生徒が言いやすい言葉に換えてリズムを覚える方法を取り入れて練習をします。



学習発表会では、幼児・児童・保護者に向けて太鼓の紹介と演奏を行いました。日頃の練習の成果が発揮され、それぞれの太鼓の音色が綺麗に重なり心地よく聞こえ、さらに迫力のある演奏ができました。



全国聾学校合奏コンクールの一次予選では、自作曲の「波音」の演奏を行いました。友達が太鼓をたたく様子を見たり、自分や友達のたたく太鼓の響きを全身で感じたりしながら、3人で息をぴったりと合わせてたたき続けました。一次審査を通過できたので、現在は二次審査で入賞することを目標に練習を重ねています。練習では、細かな箇所でもリズムを合わせられるように何度も練習したり、打つときのフォームや表情等の表現を動画で確認したりして練習に取り組んでいます。

